

1 女性の活用について

- (1) 少子高齢化に伴う人口減少の現状を考えると、生産労働に女性を活用することが必須である。

安倍首相は「女性の活用」を成長戦略の1つに据えた。市長の見解を伺う。

- (2) H19年から推進している「男女共同参画プラン指標」は現在後期に入っている。男女共同参画施策の現状と進捗を以下のとおり伺う。

H25年度達成度が100%になっている保育や教育現場での男女共同参画教育の現状と定着について伺う。

市の審議会等への女性登用の割合が、目標値よりかなり低い現状と課題、展望を伺う。

女性相談室や磐田市男女共同参画センター「ともりあ」の活用は、目標値より低い現状と課題、更に充実策があれば伺う。

各所管への横糸としての男女共同参画施策推進を今後どう図っていくのか伺う。

- (3) 市役所の取り組みについて以下を伺う。

ワークライフバランスの観点から、各種制度設置の現状、活用状況、課題を伺う。

女性の管理監督職の割合は、H25年14.4%で目標値20%を割っている。H26年からの後期には30%を目標値にしているが、現状と課題を伺う。

特に部長職が現在いないが、今後の考え方について市長の見解を伺う。

今後、急速に進むと予想される人口減少と市民からの多様な要望に応えることを考えると、行政組織にスペシャリストの設置を期待したい。分野によっては女性の起用も期待できると考える。市長の見解を伺う。

- (4) 企業の啓発について以下を伺う。

磐田の「男女共同参画社会づくり宣言」事業所・団体の現状と推進について伺う。表彰制度やホームページへの掲載について伺う。

女性が潜在力を発揮するための官民あがての取り組みについて、市長の見解を伺う。

- (5) 地域への啓発について以下を伺う。

女性の自治会長の割合はH25年1.3%。H26年からの後期目標値は、10%から2%に下方修正された。現状と課題を伺う。

暴力（DVや虐待等）防止への啓発について伺う。

2 不登校について

- (1) 磐田市の幼稚園・保育園の不登園と小中学校の不登校児童生徒の実数を伺う。また、その背景と課題を伺う。

- (2) 不登校児童生徒の対応、課題、効果について伺う。

- ・ 磐田市教育支援センター
- ・ 心の教室相談員配置
- ・ 不登校児童生徒等対策研修会

- (3) 各学校で不登校児童生徒への対応は異なると思うが、現在、どのような具体的な対応がされているか伺う。

- (4) 不登校への改善に向けての取り組みについて以下を伺う。

磐田市教育支援センターの活発な活用方法について伺う。

不登校の原因に学習遅滞が何らかの形である。個別学習定着を図るための取り組みについて伺う。

重複課題ケースに対応できる、専門家としてのスクールソーシャルワーカーの設置について伺う。